

.....

仲間の皆さん、お久しぶりです。9月の設立後、活動を始めて約4ヶ月が立ちました。1月21日には第1回役員会を開催し、この間の取り組みの報告と、今後の取り組みについて話し合いました。その内容を報告します。

### 1. 日本語支援（小学生・中学生への日本語支援）

舞鶴市内の小学校2校で3名、中学校で2名の外国籍の子どもへの日本語学習支援を実施中。小学校低学年では、「ひらがな」、「カタカナ」、「漢字」の読み書きが中心だが、中学校では内容が大きく変わる。中心的な支援は教科学習指導となる。

中学校の教科学習は小学校以上に専門用語やそれを使った説明文が多数出てくる。それらは日常会話での日本語とはとても異なる。日本で育った生徒達でも難しい用語や文章なので、外国籍生徒にはとても難解。その上、学年の通知表の年間評定がそのまま、公立高校受験の基礎点となる（この基礎点に受験科目の得点が加えられて合否決定）。学期毎には中間・期末テストがあり、この評定につながる。だから中学校では、教科書や問題集で「読めない」「理解できない」日本語読解の支援も大切だが、この教科学習への支援がないと授業についていけない。だから、私たち支援者は週3日（1日2時間）ほど学校に行き、別室で個人指導するときは、自分の専門分野の英語や理科や数学の教科書・参考書を読ませ、問題を解かせながら、学力保障の支援を行っている。そして、テストの時は、そのテスト問題の日本語の説明や指示文の理解できないところを通訳・説明しながら理解させ、テストを受けさせるサポートを行っている。



### 2. 来年度に高校受験を目指す生徒の日本語、及び教科学習指導

外国で中学卒業後、来日し、来年度に舞鶴市の私立高校入学をめざしている生徒がいる。生後ずっと外国で生活していたため、日本語はほとんど習得できていない。このため親の依頼を受け、春より週3～5回、会員の原田さんのおられる「聖母訪問会」の教会一室を借りて、国語、英語、数学の指導に当たってきた。本人の目を見張るような努力と家族の協力、そして会員のサポート、「聖母訪問会」のご協力によって、その成果が見えつつある。

### 3. 来日し、日本で仕事をするため日本語を習得する必要のある人への支援。

現在、2名の支援を実施。支援ネットとしては会場を借りる資金もないので、市民プラザのホールを使って、2名の20才代への支援をそれぞれ週2回、毎回2時間ほど、日本語の「読み、書き」を中心に支援している。



### 4. 日本語支援会場の整備

日本語支援に直接関われるサポーターは限られている。しかし、いろんな形で、会員として活動はできます。支援をするとき苦労する一つが会場の確保。いま活動を大きく支えていただいているのが、原田さんのおられる「聖母訪問会」の敷地内の立派な教室。テーブル、トイレ、エアコン、全てが完備され、しかも無料で貸していただけることになった。交通の便も大変いい。

そこで、私たちは、直接サポートに関われない会員でも出来る活動として、広い敷地内に茂る樹木、生える草などを、せめて定期的に伐採し刈り取ることをしたいと考え、

- ①1回目の草刈りを秋に実施。(支援員3名、支援を受けている親子3名参加)
- ②さらに会員で植木職人の井本精一さんの好意で、都合をつけて庭木の手入れをしていただいている。

☆今後も、これらの作業を行うときに、会員の皆さんに呼びかけますので、ご都合が付きましたらご協力下さい。



### 5. 翻訳の依頼

外国に住んでいる子どもを日本に呼んで自分の養子にしたいということで、出生証明書の翻訳の依頼を受け、支援ネットの会員とつながっている方にお願ひし、快く引き受けていただいた。

### 6. 現在までの収支報告

支援する児童・生徒や青少年の日本語支援のための教材費、会場費、事務費等。

### 7. 現在の会員数

少しずつ会員数が増えてきている。設立時は16名。現在25名。



## 日本の高校受験をめざす外国籍市民への支援の報告

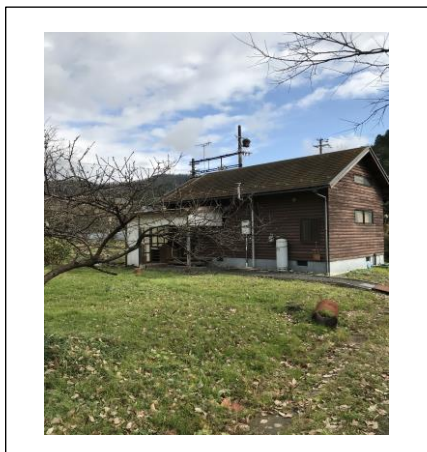
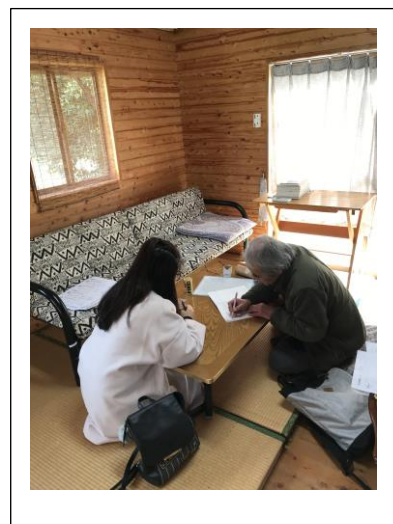
ここで、昨年春に日本にやってきて、今春、日本の高校を受験しようとしている外国籍生徒への具体的な日本語支援の取り組みについて、ご両親、本人の了承の上で報告します。

彼女は、昨年の春にフィリピンの中学を卒業し日本にやってきました。その時には、「こんにちは！」ぐらいは言えても、「ひらかな」「カタカナ」の読み書きは勿論のこと、「漢字」は全く読み書き出来ませんでした。

その彼女が1年後には、日本の高校に入り将来看護師になりたいという夢を適えるため、日本語と受験教科の学習に取り組むための支援を、本人と家族が私たちに求めて来られたのです。この国際支援ネット立ち上げのきっかけの1つとなったのは、彼女との出会いでした。

彼女は来日後、五月より午前中から午後の3時過ぎまでネットを使って毎日、日本語学習を行い、その後は、私たちの国際支援ネットのメンバーである安田先生が、毎週3~4日(2時間ほど)日本語支援に当たりました。更に、他のメンバーが土曜日に、数学、英語等の受験教科の指導に当たりました。さらに、家庭において、日本籍のお父さんが、仕事の終わった後、一生懸命彼女に日本語の支援をされてきました。

そして8ヶ月経った12月頃には、なんと彼女は小学校の6年生の国語をマスターするほどの力をつけてきました。数学も二次関数、因数分解、 $\sqrt{\quad}$ に関する日本語の説明も相当の理解ができ、日本語の指示に従って解けるほどになってきたのです。英文も日本語に訳することができ、日本語を英文に訳することも相当出来るようになってきました。



正に驚異的と言っていいほどの日本語の学習結果であり、教科学習の成果であります。今までいろんな外国籍生徒の日本語支援に関わってきましたが、これほどの成果を上げた生徒を見たことはありません。

しかも、彼女は日本語学校には通学していない中での結果を作り出してきたのです。フィリピンの中学校を卒業し、日本語をほとんど話せない、書けない、読めない、そんな状況で日本にやってきて、わずか8ヶ月でここまで日本語や教科学習が理解できる。

これはひとえに、日本の高校に入り、将来は看護師に

なりたいという彼女の思いの強さ、そしてそれを支えたご両親、そして毎週4日間、1時間かけて丹後の大宮町から来て支援に当たってくれている安田先生や他の仲間達の力、さらには、近くにある教室を無料で貸してくださっている、会員である原田さんのおられる「聖母訪問会」のご協力があるの事だと思っております。

このニュースの題名の「つなぐ」とは、まさに、多くの皆さんが「つなぎ合って」こそ、外国籍児童・生徒、青少年・市民達が、日本で私たちと交流しながら、互いに人間として、国籍、人種、文化等の違いを超えて理解し合いながら生きていけるのだということを言い表す言葉だと思っております。

彼女への支援を通して、本当にいろんな学習をさせていただいていることを、ここに報告させていただきます。

今後、彼女を初め京都北部に住む外国籍児童・生徒、青少年の日本語、教科学習の支援を行いながら、その家族の皆さんとも日常的な交流をし、共に学びながら、共同した社会を作れたらと願っております。今後も出来る範囲でのご協力をお願いします。



この「つなぐ」へのご意見、投稿等は下記へお寄せ下さい。

滝花

[t.takihana@knisnet.com](mailto:t.takihana@knisnet.com) もしくは [t.takihana@nike.eonet.ne.jp](mailto:t.takihana@nike.eonet.ne.jp)

後野国雄 携帯 090-8887-5921

(文責：滝花、後野)